

電弱理論 (SU(2)L × U(1)) をまとめるなど無謀なんですが無理やりまとめてみました。その式はどっからでて来たんだ?、聞かれると大変困ります。そう聞かれたときは「ゲージ理論入門 1、2」(著 I.j.R. Aitchison/A.J.G.Hey 訳 藤井明彦) からと答えるしかありません。

まず、SU(2)L の量子数弱いアイソスピン T のほかに理論には U(1) の記述のための弱いハイパー荷 y ができます。電荷 Q (素電荷 e を 1 とする) と弱いアイソスピン t と弱いハイパー荷 y の間には

$$Q = t_3 + y/2 \quad (1)$$

の関係があります。ここで Q は素電荷 e で単位化したものです。

さて、電弱理論では Higgs 場と言う場を考え、これの対称性が自発的に破れ、ベクトル場が質量をもつというものです。そのための Higgs 場として

$$\hat{\phi} = \begin{pmatrix} (1/\sqrt{2})(\hat{\phi}_1 + i\hat{\phi}_2) \\ (1/\sqrt{2})(\hat{\phi}_3 + i\hat{\phi}_4) \end{pmatrix} \quad t_3 = \begin{cases} +\frac{1}{2} \\ -\frac{1}{2} \end{cases} \quad (2)$$

というものを考えるとうまく行きます。

質量を持つベクトル場の方程式というのが

$$(\square + M^2)\hat{A}^\mu - \partial_\mu \partial_\nu \hat{A}^\nu = \hat{j}_{interact}^\mu \quad (3)$$

となるそうです。この質量 M は真空の遮蔽カレントから

$$\hat{j}^\mu = -M^2 A^\mu + (interact) \quad (4)$$

と得られます。

でその真空の遮蔽カレントを求めたいんですが各々 U(1) カレントが

$$\hat{j}_y^\mu(\hat{\phi}) = i(g'/2)y[\hat{\phi}^\dagger(\partial^\mu \hat{\phi}) - (\partial^\mu \hat{\phi})^\dagger \hat{\phi}] \quad (5)$$

であり

(真空の遮蔽) SU(2)L カレントが

$$\hat{j}^{a\mu}(\hat{\phi}) = ig[\hat{\phi}^\dagger \frac{\tau^a}{2}(\partial^\mu \hat{\phi}) - (\partial^\mu \hat{\phi})^\dagger \frac{\tau^a}{2} \hat{\phi}] \quad (6)$$

となるそうなんですが、これらを共変微分で置き換えなくてはならず

共変微係数

$$\partial^\mu \rightarrow \hat{D}^\mu = \partial^\mu + ig(\tau/2) \cdot \hat{\mathbf{W}}^\mu + i(g'/2)y\hat{B}^\mu \quad (7)$$

より

$$\hat{j}_y^\mu(\hat{\phi}) = i(g'/2)y[\hat{\phi}^\dagger(\partial^\mu \hat{\phi}) - (\partial^\mu \hat{\phi})^\dagger \hat{\phi}] - gg'y\hat{\phi}^\dagger(\tau/2) \cdot \hat{\phi} \hat{\mathbf{W}}^\mu - (g'^2/2)y^2 \hat{\phi}^\dagger \hat{\phi} \hat{B}^\mu \quad (8)$$

および

$$\hat{j}^{a\mu}(\hat{\phi}) = ig[\hat{\phi}^\dagger \frac{\tau^a}{2}(\partial^\mu \hat{\phi}) - (\partial^\mu \hat{\phi})^\dagger \frac{\tau^a}{2} \hat{\phi}] - (g^2/2)\hat{\phi}^\dagger \hat{\phi} \hat{W}^{a\mu} - gg'y\hat{\phi}^\dagger(\tau/2)\hat{\phi} \hat{B}^\mu \quad (9)$$

となります。

さて、 $\hat{\phi}$ は適当なゲージを取ることにより

$$\hat{\phi} = \begin{pmatrix} 0 \\ f/\sqrt{2} \end{pmatrix} + \dots \quad (10)$$

ととれるそうです (f は実定数)。...の部分はこれからの計算には寄与しない部分。これは $t_3 = -1/2$ 成分で、また 0 でない真空値の場合は帯電できないので電荷は 0。よって関係式

$$Q = t_3 + y/2 \quad (11)$$

から $y=1$ となり (9) に代入すると

$$\hat{j}^{a\mu}(\hat{\phi}) = ig[\hat{\phi}^\dagger \frac{\tau^a}{2} (\partial^\mu \hat{\phi}) - (\partial^\mu \hat{\phi})^\dagger \frac{\tau^a}{2} \hat{\phi}] - (g^2/2)\hat{\phi}^\dagger \hat{\phi} \hat{W}^{a\mu} - gg' \hat{\phi}^\dagger (\tau/2) \hat{\phi} \hat{B}^\mu \quad (12)$$

これを計算すると

$$\hat{j}^{1,2\mu}(\hat{\phi}) = -(g'^2 f^2/4) \hat{W}^{1,2\mu} \quad (13)$$

となり、 $\hat{W}^{1,2\mu}$ は W^\pm ボソンに当たり

$$M_w = gf/2 \quad (14)$$

が得られる。また $a=3$ のときは

$$\hat{j}^{3\mu}(\hat{\phi}) = -(g'^2 f^2/4) \hat{W}^{3\mu} + (gg' f^2/4) \hat{B}^\mu \quad (15)$$

となり、これから場の方程式が

$$\hat{W}^{3\mu} - \partial_\mu \partial_\nu \hat{W}^{3\nu} = -(g'^2 f^2/4) \hat{W}^{3\mu} + (gg' f^2/4) \hat{B}^\mu + \hat{j}^{3\mu}(\hat{W}) \quad (16)$$

となります。ここで $\hat{j}^{3\mu}(\hat{W})$ は W の自己相互作用の項。

一方、 $U(1)$ のゲージ場 \hat{B}^μ の満たす方程式のほうは

$$\hat{j}_y^\mu(\hat{\phi}) = i(g'/2)[\hat{\phi}^\dagger (\partial^\mu \hat{\phi}) - (\partial^\mu \hat{\phi})^\dagger \hat{\phi}] - gg' \hat{\phi}^\dagger (\tau/2) \cdot \hat{\phi} \hat{W}^\mu - (g'^2/2) \hat{\phi}^\dagger \hat{\phi} \hat{B}^\mu \quad (17)$$

から、

$$\hat{j}_y^\mu(\hat{\phi}) = (gg' f^2/4) \hat{W}^{3\mu} - (g'^2 f^2/4) \hat{B}^\mu \quad (18)$$

なので

$$\hat{B}^\mu - \partial_\mu \partial_\nu \hat{B}^\nu = (gg' f^2/4) \hat{W}^{3\mu} - (g'^2 f^2/4) \hat{B}^\mu \quad (19)$$

となります。ここで \hat{B}^μ と $\hat{W}^{3\mu}$ の適当な線形結合

$$g' \hat{W}^{3\mu} + g \hat{B}^\mu \quad (20)$$

を考えると (16) と (19) から質量項が相殺され場の方程式は

$$(g' \hat{W}^{3\mu} + g \hat{B}^\mu) - \partial_\mu \partial_\nu (g' \hat{W}^{3\nu} + g \hat{B}^\nu) = g' \hat{j}^{3\mu}(\hat{W}) \quad (21)$$

となりこれは荷電 W 粒子と結合する、質量のない粒子、すなわち光子であると考えられます。規格化すれば式 (11 . 12) になります。

また、電磁場 \hat{A}^μ に直交する

$$\hat{Z}^\mu = \cos \theta_w \hat{W}^{3\mu} - \sin \theta_w \hat{B}^\mu \quad (22)$$

から

$$\hat{Z}^\mu - \partial_\mu \partial_\nu \hat{Z}^\nu = -(f^2/4)(g'^2 + g^2) \hat{Z}^\mu + \cos \theta_w \hat{j}^{3\mu}(\hat{W}) \quad (23)$$

がえられ、これが Z 粒子で、質量は

$$M_z = \frac{1}{2} f (g'^2 + g^2)^{1/2} = M_w / \cos \theta_w \quad (24)$$

とわかります (式 (11.20))

また、ここで共変微分

$$\hat{D}^\mu = \partial^\mu + iq\hat{A}^\mu \quad (25)$$

からチャージ q がわかって、実際

$$\hat{D}^\mu = \partial^\mu + ig(\tau/2) \cdot \hat{\mathbf{W}}^\mu + i(g'/2)y\hat{B}^\mu \quad (26)$$

$$\hat{D}^\mu = \partial^\mu + ig(t_3^{(t)}) \cdot \hat{\mathbf{W}}^\mu + i(g'/2)y\hat{B}^\mu \quad (27)$$

$$\hat{D}^\mu = \partial^\mu + ig(t_3^{(t)})\hat{W}^{3\mu} + i(g'/2)y\hat{B}^\mu + ig(t_3^{(t)})\hat{W}^{1,2\mu} \quad (28)$$

$$\hat{D}^\mu = \partial^\mu + ig(t_3^{(t)})[\sin\theta_w\hat{A}^\mu + \cos\theta_w\hat{Z}^\mu] + i(g'/2)y[\cos\theta_w\hat{A}^\mu - \sin\theta_w\hat{Z}^\mu] + ig(t_3^{(t)})\hat{W}^{1,2\mu} \quad (29)$$

$$\hat{D}^\mu = \partial^\mu + ig\sin\theta_w\hat{A}^\mu(t_3^{(t)} + y/2) + i(g/\cos\theta_w)\hat{Z}^\mu[\cos^2\theta_w t_3^{(t)} - (y/2)\sin^2\theta_w] + ig(t_3^{(t)})\hat{W}^{1,2\mu} \quad (30)$$

なので ($Q = t_3 + y/2$ を使い)

$$e = g\sin\theta_w \quad (31)$$

これが式 (11.16)。また、 Z のチャージが

$$g_z = (g/\cos\theta_w)[\cos^2\theta_w t_3^{(t)} - (y/2)\sin^2\theta_w] = (g/\cos\theta_w)[t_3 - Q\sin^2\theta_w] \quad (32)$$

となります (式 (11.18))